

史跡案内（薦野地区）

古賀史跡案内ボランティア

平成15年08月01日

1 薦野地区史跡めぐりコース

清瀧寺 A → 砂鉄中継所 B → 清滝仕掛水 C → 若宮神社 D → 養徳山（薦野増時の墓） E
→ 天降神社 F

2 薦野地区史跡

1. 清瀧寺 【A】（別紙）

- ① 宗派・本尊：宗派）天台宗。本尊）阿弥陀如来。山号）瑠璃光山。
- ② 縁起：天平年間に行基の開基という説もあるが、実際は鎌倉時代の創建と考えられる。山林一帯が境内で、17坊記念碑には「数百の坊中共存せしも」とあることから大寺院であったと思われる。
- ③ その他：福岡県指定天然記念物の樹齢300年のイスノキ

2. 砂鉄中継所 【B】

- ① 江戸時代末期、黒田藩家老加藤司書が津屋崎渡の海岸で採取した砂鉄を犬鳴山にある精練所に送るために作った人馬の中継所。鉄砲や艦船を作るための鉄の重要性を悟り藩内に鉄鉱を探させたが見つからず、津屋崎渡の沿岸に砂鉄が無尽蔵にあるのを発見。この砂鉄を牛馬の背や人に背負わせ清滝で中継し薦野峠を越え、人目を忍ぶために作った犬鳴山の精練所に運んだ。
- ⇒ 加藤司書：幕末の福岡藩の家老職、西郷隆盛と並び賞された逸材であるが、藩の勤皇派弾圧の中で慶応元年（1865）に処刑された。36歳であった。
- ⇒ 第二次長州征伐中止の立役者となる司書の今様「皇御国の武士はいかなる事をか^{すめらみくに} ^{もののふ} ^{まごころ}勤むべき只身にもてる赤心を君と親とに盡すまで」は有名。

3. 清滝仕掛水 【 C 】

- ① 清滝水路とも呼ばれ、明和9年(1772)に郡奉行富永甚右衛門のもと清滝から上西郷までの5 kmに亘る水路を作った。当時の覚え書きの約束は現在も守られ毎年1月初旬から3月末まで福岡町に送水されている。今も溝床米として福岡から水利費50万円が支払われている。覚え書きは薦野地区の担当者の金庫に保管されている。

4. 若宮神社 【 D 】

- ① 祭神： 大雀天皇（おおさざき、仁徳天皇）
② 縁起： 創建は不明。古くは北谷にあったが明和3年(1766)に谷川清五郎がこの地に遷した。文明6年(1809)神殿瓦葺を建立して御遷座し
③ 祭礼： 10月9日
④ 絵馬： 1面、合戦図、剥落し判読不能。
⇒ 社名： 鳥居神額・古賀風土記マップは若宮神社、拝殿改築奉納書・古賀の絵馬では若宮八幡宮と表す。

5. 養徳山 【 E 】

- ① 昔は薦野城の里城であった。(薦野城は裏山茶臼山の頂上にあった。)
② 墓標： 中心に薦野増時の墓、向かって左に成家(増時の子)の妻信解院(立花宗茂の妹)の墓、右に薦野重昌の墓。
③ 峯延墓銘碑： 始祖丹治式部峯延の850年の遠忌に当たる安永3年(1774)に薦野増厚をはじめ薦野一族が建立した。博多横岳山崇福寺の徳隠禅師の撰文である。
⇒ 薦野増時： 立花道雪から、養子となり立花家を継ぐよう求められたが、大友の血を絶やしたらいけないと高橋紹運の千熊丸(後の宗茂)を推薦して増時がそれを断ると、道雪は増時の長子成家に宗茂(道雪の養子)の妹を嫁がせている。道雪の増時への信頼の厚さがうかがえる逸話である。増時は梅岳寺(新宮)の道雪の墓の横に分骨して葬られ、その他博多蓮池の妙典寺にも分骨されている。
⇒ 薦野重昌(しげなり)： 増時の四男増重の曾孫。黒田藩大老1万500石を禄す。黒田姓を賜う。薦野で没す。

6. 天降神社 【 F 】 (別紙)

① 祭神：スサノオノミコト素戔嗚尊、すくなひこなのみこと少彦名命、おおなむちのみこと大己貴命

② 縁起：昔は天降天神と称し、少彦名命が主祭神だった。嘉元3年(1305)に火難にあつて現在地に遷ったが、もとは古野にいらした。

③ その他：神殿の彫刻は古賀市指定文化財。薦野増厚寄進の燈籠。